

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800081		
法人名	(株)ニチ学館		
事業所名	ニチケアセンター加美北 認知症共同生活介護 (大和路)		
所在地	大阪府大阪市平野区加美北6-10-13		
自己評価作成日	平成24年8月24日	評価結果市町村受理日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2795800081-00&PrefCd=27&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念(もっと楽しく!!もっと笑顔に!!)も基にお客様の笑顔が絶えないホーム作りを目指しております。今年にホーム理念を一新し全スタッフとホーム作りが出来る環境や管理者の思いスタッフの思いは詰まったホームになっております。地域との関わりが年々と深くなってきており、今年には地域お祭りの出店協力や子供だんじりの開催時ホーム前をにぎやかにになりお客様の楽しみの一つになっております。またホームとしては比較的に広いスペースがありますので様々な行事をホーム横の駐車場でも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、理念にある「笑顔」と「楽しさ」の提供を目指し、地域貢献に力を入れ、職員は笑顔で挨拶し、地域のパトロールや掃除を担うことで地域との関係性が深まりつつあり、小学校の夏祭りに出店するなどのつながりが広がっています。職員は利用者一人ひとりに丁寧な言葉遣いで尊敬を持って接し、職員間は密に連携を取り意見を交わし、利用者の持つ力や意向を把握してケアに携わっています。懐かしい場所への外出やビデオ鑑賞会を取り入れたり、重度になってきている利用者にも、外出を支援し日々を楽しんでもらえるよう工夫しています。職員は現状に満足することなく、外部からのアドバイスを真摯に受け日々サービスの向上に努めるとともに、重度化のケアについてもチームワークを大切にしながら前向きに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホーム内入り口に掲示、家族やスタッフ間で共有できるように心掛けている。法人理念は毎日の朝礼にて唱和している。	ホームの方針である7項目を基に、職員間で話し合い、わかりやすいホームの理念を作り玄関に掲げ明示しています。理念の「笑顔」を意識し、地域の方に笑顔で挨拶するよう心がけ、地域の中で楽しく暮らしてもらえるよう日々、理念を振り返りケアしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の掃除今年から青色パトロールの参加協力や地域のお祭り出店、他施設やふれあい喫茶への参加している。	散歩や地蔵参り、商店への買い物等で地域の方々と交流しています。ボランティアや高校生の実習生が毎年訪れたり、今年は中学生の体験学習も受け入れ予定となっており、ホームの祭りに地域の方に参加を呼び掛けることも計画されています。また職員が安全パトロールや公園掃除に参加し、地域との関わりが深まるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアが月1回、今年から地域中学校の職場体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の活動を聞き、ホームとして地域に参加できるように助言や手助けをいただいている。	会議は、民生委員、地域推進委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て二ヶ月に一回開催されています。参加者よりボランティアの紹介や運営に関するアドバイスなど様々な意見をもらっています。家族へは毎回開催を知らせていますが、参加を得るまでに至っていない状況です。	会議内容は地域情報を得るなど有意義なものとなっていますので、会議内容の要約を家族や職員に開示し、運営推進会議の意義を理解してもらい、家族の参加に繋がってはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	加美北ネットワーク委員や地域包括へ定期訪問や事故報告を市長村へ報告を行っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が欠席した時は、区役所担当者へ議事録を直接手渡し挨拶を交わしています。その他必要時に報告や介護保険関係の手続きに向かっています。地域包括支援センターとは密接に連携し、随時役所へ繋がってもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回会議などで身体拘束委員よりの活動報告を受けている。	身体拘束委員会の担当者を中心に毎月研修を行い、拘束の弊害について職員に周知しています。研修では日々のケアにおける事例を挙げ、言葉の制止についても拘束か否かを話し合っています。玄関は開放されていますが、ユニットはテンキーにて施錠され、現在開放に向け検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員とのコミュニケーションは図ったり、ガス抜きが出来る場を提供している。		

ニチイケアセンター加美北（大和路）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しているお客様をおられ、必要時、関係者と話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書と入居契約書を説明しご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や行事時に要望があればできるだけ速やかに改善するように努力している。	年二回家族会を行事に合わせて開催し、様々な意見や要望をもらっています。ホームでの様子を報告することで家族の意見や感想を引き出しやすいよう配慮し、改善できる事柄はすみやかに対処しています。面会の少ない家族には定期的に電話をして気になる事がないか聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーと管理者の話し合いの場を設けたり会議の中での相談、報告、連絡やスタッフの落としこみが出来る環境に努めている。	職員会議では利用者のケアや運営について、職員から活発な意見が出されています。日頃のケアの中での意見はリーダーがまとめ、管理者へ伝えています。職員の提案により4月より朝礼が行われるようになり、職員の意見や提案がより浸透しやすくなりました。また個人面談も順次行う予定となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人ではキャリアアップ制度があり、能力により時給者は昇給試験を受ける事ができ、家族愛、夏季休、有給をとる事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外研修、に参加、提案、ができるような体制、医療関係者からの指導體制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社での意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて面談を行い、馴染みの関係性の築きを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、面談時、家族の思いを受け入れ、安心して生活が出来るように対応を心掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様との面談時、訪問時、生活歴、様子をお聞きし今後の支援に役立っている。また必要があれば他サービスの案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔馴染みの関係性を大切にお客様の訴えに耳を傾けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画書の更新時にご様子を報告しご様子の状態を必要に応じて報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の元、外泊や外出している。またホームとしても家族様参加できるような行事を計画している。	知人や友人が急に訪ねて来たり、手紙のやりとりを行っている利用者もいます。職員は来訪を歓迎し、手紙の代筆や投函の支援を行っています。懐かしい場所や昔の慣習を利用者や家族に尋ね、墓参りや馴染みのスーパー、百貨店等を外出プランの行き先に組み込み、以前からの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同でのホーム行事や2ヶ月に一回、合同での食事会を開きお客様同士の関わりを増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様や家族様へは介護計画書の更新時、ご意向をお聞きするようにしている。	入居前に家族や事業所から生活歴や習慣、好みなどを聴き取り、アセスメント用紙に詳細に記載し、情報を把握しています。また、日々の会話や言動、介護記録から利用者の希望や意向の把握に繋げ、意思表示が難しい方は家族に聴いたり、表情や行動から汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし、個々の能力に応じて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し職員間で意見を出し合い計画書の見直している。	アセスメントや利用者の言動、思いや意向を基に介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、入居当初は一か月、以後三か月ごとにサービス担当者会議を開き計画を見直しています。職員は計画内容を把握した上で日々の記録を記し、会議に参加していない職員や家族の意見も踏まえ、個々の状態に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の訴え、急変時の記録と介護計画書に沿って記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、家族様へ相談しお客様のニーズ本人への目標にしたり柔軟に対応している。		

ニチイケアセンター加美北（大和路）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、祭り、安全パトロール、公園掃除に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間/1度/往診。急変時や体調管理を24時間の医療体制で整えている。	入居時にホームの協力医について説明を行い、本人と家族が納得いくよう話し合い、かかりつけ医を決めています。ホームの協力医とは24時間連携が取れる体制にあり、往診時には受診記録にて職員間で情報を共有しています。その他週1回の訪問看護や必要な方には訪問歯科、鍼灸師によるマッサージも受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間/1度/訪問看護の往診。医療連携加算を取得している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院でのSWからの情報やホームでの受け入れ体制をその都度行っている。お客様のお見舞いの頻度を増やしナースなどからも情報を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医、管理者、家族様と話し合いを行い、希望をあれば終末期の対応を行っている。 ただ24時間継続した医療処置に対しては有料老人ホームや他施設を紹介している。	昨年末からホームとして重度化を受け入れる体制を整え、職員も方針を理解し前向きに取り組んでいます。ホームとしては医療行為が必要になれば、医師、家族を交えて話し合い方針を決めていく考えです。職員には勉強会を開き、重度化についてのケアの理解や心構えなどをチームで取り組む姿勢を固めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにて対応出来るようにし、主治医との24時間連絡体制があり、管理者と主治医に連絡・相談・報告できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、地震時非難場所の周知、防災マップを掲示している。また消防訓練に色々な事を想定し練習を行っている。	避難訓練は、消防署の立ち会いの下と自主訓練をそれぞれ年に一回ずつ実施しています。その中で夜間想定で非常階段からの避難方法を考えた訓練も行っています。地域の方には、運営推進会議で告知や参加依頼を続け、協力体制を築けるよう働きかけています。また備蓄や防災用具も備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の尊厳を配慮する言動を心掛けている	利用者の呼び方や言葉遣い、話し方には常に尊厳を持って接するように努めています。不適切な言葉遣いがある時は管理者がその都度注意を促しています。トイレ介助の際は、誘導の言葉を変えるなど特に留意し、プライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様個人の意思確認が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問美容や趣向品を買いを行ったり外出する機会を作りおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の要望をたまに取り入れ、職員と出来る人は食事を作ったり、出来ない人は匂いなどの雰囲気を感じていただいている。	利用者の希望を組み入れながら担当者がメニューを考え、できる方には買い物や配膳、洗い物等職員と一緒にしています。利用者の身体状況によりミキサーを使い食べやすくして提供しています。定期的に多種のレストランでの外食を取り入れ、気分を変えて食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態によって水分、食事形態に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科があり歯科医の先生より口腔ケアやマッサージの指導をして頂いている。		

ニチイケアセンター加美北（大和路）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせて排泄の誘導を行っている。	排泄の記録参照し、個々の利用者の排泄パターンを把握しながらトイレ誘導を行い、失敗のないよう支援しています。本人の意思やプライド等を重視して布パンツやパットを使用したり、夜は安眠してもらえるよう誘導のタイミングを配慮するなど、個々に合わせた排泄の支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ運動にて自然排便を促しているが便秘が続くと主治医と相談し下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日の入浴を基本としているが足浴なども臨機応変に対応している。	入浴回数や時間はおおよそ決まっていますが、希望があれば臨機応変に対応しています。一人ずつ湯を入れ変えゆったりと入ってもらい、入浴剤を使用したり職員との会話でリラックスしてもらえるよう配慮しています。入浴を拒否される方にはまず原因を考え様々な誘い方を試みて無理なく入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を工夫し昼夜逆転しないように努めている。不眠が続く場合を主治医と相談済み		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、ホーム職員にて管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力によってお客様が活躍できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調に配慮し散歩や買い物に行っている。	ホーム周りの散歩や地蔵参り、新聞取りや花の水やりなど日常的に行なえるよう支援したり、気候に合わせてできるだけ外気に触れ気分転換をしてもらえるよう配慮しています。外出がすすまない方のために、“お出かけ表”を作成して気持ちを戸外へ向けてもらえるよう工夫しています。季節の花見には家族にも呼び掛けて遠足にも出かけています。	

ニチイケアセンター加美北（大和路）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫に保管している。購入したい物があればその都度渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様からの要望があれば手紙や電話連絡ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ちついた空間を提供できるように配慮している。	玄関先やテラスの庭先に季節の草花や菜園があり、リビングの壁には利用者の共同作品が飾られ季節感を醸し出しています。ゆったりしたソファや畳の間は落ち着いて過ごせる空間となり、グリーンカーテンや温室時計の設置で快適に過ごせるよう配慮しています。また廊下の手すりは夜間もわかりやすいよう蛍光テープをはるなど安全面にも工夫をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、リビングなど自由に過ごせる空間や一人になれるように支援してる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物をご自分の居室に持ち込んで一人一人が居心地の良い空間を工夫しながら作っている。	居室のカーテンは備え付けですが、それ以外は持ち込みとなっており、家族と相談しながら利用者は使い慣れたものや気に入った家具を持ち込み配置を工夫しています。希望により畳を敷くことも可能となっています。趣味の写真や絵、俳句を飾ったり、家族の写真を飾りを並べています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の出来ること、出来ない事を職員が見極めお客様を活かした支援をしている。		